

令和2年2月13日



川西市議会議長 秋田修一 様

会派（呼称）名 公明党

議員名 平岡 譲

管外調査報告書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名

平岡 譲 大崎淳正 江見輝男 大矢根秀明 麻田寿美

2 調査先 ○ 川崎市 ○ 平塚市

3 調査期間 令和2年2月3日 川崎市 令和2年2月4日 平塚市

4 調査結果の概要

○川崎市におけるPFI事業による中学校給食の取り組みについて

1. 事業内容について
2. 事業方式について
3. 運営状況について
4. 川崎市南部学校給食センター施設見学

○平塚市における子育て世代包括支援センターの取り組みについて

1. 平塚市の子育て施策について
2. ネウボラルーム「はぐくみ」の取り組みについて
3. はぐくみ見学
4. 産後メンタルケアの取り組みについて
5. 葉酸プロジェクトについて

所 感

○川崎市におけるPFI事業による中学校給食の取り組みについて

川崎市では、平成29年から、市内北部、中部、南部の3カ所に給食センターを新設し、中学校給食を開始しています。それまで自校方式で給食を実施していた4校と合わせ、市内の市立中全52校での完全給食が実現しました。主要食材は国産にこだわり、ほかほかで温かく薄味だけどおいしい味付け、米飯の比率を90%以上とするなどの「健康給食」を提供しています。

今回の視察では、平成29年9月に稼働開始した川崎市南部学校給食センターの取り組みについて調査しました。同センターの調理能力は1日当たり最大15,000食(2献立)、アレルギー対応食も1日当たり150食、配送対象中学校は22校、配送車両台数も24台に及ぶ大規模な給食センターでした。また、建物2階部分には、見学スペースが設けられ、大きな見学窓から1階の調理室等を一望でき、大勢の職員が、最新の設備と清潔な職場環境で働いておられる姿も見ることができました。

中学校給食の事業形態は、PFI手法で実施され、民間活力を活用し、安全・安心でおいしい給食を、効率的に提供しており、川西市が進める中学校給食事業もPFI手法で実施されるため、大変参考になりました。同センターは、給食センターの設計・建設、開設準備、維持管理と運営についてPFI事業として実施しています。

○平塚市における子育て世代包括支援センターの取り組みについて

平塚市では、平成29年4月、保健センター内に妊娠期から出産、子育て期までの切れ目のない支援を目的として、相談や情報提供、支援へつなぐための窓口となる、子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラルーム はぐくみ」を開設しました。専門職員による相談、情報提供、ネットワーク体制による迅速・切れ目のない支援を行っています。

保健師や助産師、管理栄養士、保育士などの専門職員が随時相談に応じ、必要なアドバイスやサービスの紹介、情報提供などを行い、妊娠中の栄養指導や、胎児モデルを使った妊娠経過の説明、ご同伴のパートナーの方へは妊婦体験なども行っています。また、必要に応じて健康課内の地区担当保健師や庁内関係課、関係機関とのネットワーク体制で迅速・切れ目のない支援を実施しています。

今回、平塚市の子育て世代への先進的な取り組みを調査・視察させていただいたことを、川西市における子育て世代包括支援センターの取り組みに大いに役に立てていきます。

川崎市南部給食センター



ネウボラルーム「はぐくみ」



平塚市保健センター ⇒

